錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第４２１号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会

編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：関東大会に出場した部活を特集！
各学年の探求の内容を紹介
二面：生徒会の現状に迫る！
文化部の活動を大公開

洗練された技術を糧に

３部活が関東大会出場

令和５年度が始まって約３か月。今年度も多くの部活動が精力的に活動している。その中でも、陸上部、ソフトテニス部、空手道部は関東大会への出場を果たした。今号では関東大会を終えた生徒の思いを紹介する。

（編集部共同取材）

３人仲良くガッツポーズで笑顔を見せる

陸上競歩インターハイ進出

６月16日（金）に山梨県で開催された高校総体関東大会の女子５０００ｍ競歩に出場した早川愛花さん（２L）と池田美和さん（３L）と吉川佳凜さん（３C）。それぞれの成績は早川さんが３位、池田さんが７位、吉川さんが途中棄権という成績だった。その結果、早川さんが８月に北海道で行われるインターハイに初めての出場を決めた。

池田さんは「引退試合だったので今まで頑張ってきたことを全て出し切れて良かったです」と話す。吉川さんは今回関東大会に出場できたのは「同じクラスの子や陸部の仲間たちの応援があったことが大きいです」と振り返る。また「お互いが『負けたくない！』という気持ちを常に持ち、楽しみながら練習してきたからだと思います」と話してくれた。

大会当日は30度という猛暑で、競技中では心が折れそうな場面があり、とても苦労したそうだが沢山の応援にとても支えられたそうだ。

早川さんは３位を獲ったことについて結果ももちろんだが、楽しんで歩けたので良かったと大会を振り返る。また錦城生に対して「応援ありがとうございました。競技中、応援のありがたみをとても強く感じました。８月に開催されるインターハイ出場が決まったので、また応援よろしくお願いします」と話した。

初の関東出場を果たした

ソフテニ初の関東の舞台

６月５日（月）に千葉県で行われた令和５年度関東高等学校ソフトテニス大会に田口莉子さん（３A）と宮部汐音さん（３J）のペアが出場した。２人は今年４月に行われた予選大会で都内ベスト16になり、今回初めての関東大会出場となった。

関東大会は都内の大会よりも高いレベルの選手が集まり、難しい試合になるため、頭を使ってプレーをすることを意識して練習に取り組んだという。

田口さんと宮部さんにとって初めての関東の舞台であった今大会。開会式に参加した時、本当に関東大会進出を決めたことを実感し、感動したそうだ。大会を振り返って「勝っても負けても今まで練習で積み重ねてきたことを発揮できるようにプレーしました」と宮部さん。関東大会でのプレーを楽しむことを意識したと語ってくれた。

ソフトテニス部の後輩に向けて田口さんは「努力すれば高いレベルまで進めて、ソフトテニスが楽しいと感じることができます。今の練習に真剣に取り組み、テニスが楽しいと感じられるように頑張って下さい」と話してくれた。宮部さんも「楽しんでやることが一番なので、辛いことがあってもみんなでサポートし合ってほしいです」とメッセージを送った。

空手４年ぶりに関東へ

空手道部は６月９日（金）から６月11日（日）にかけて、埼玉県の深谷ビッグタートルにて行われた関東高等学校空手道大会に女子団体形で出場した。結果は第１ラウンド敗退となった。

部長の徳光保奈美さん（３M）は「錦城の空手道部が関東大会に出場するのは４年ぶりで、私たちの中ではだれも経験した人がいなくて不安だったのですが、それ以上にうれしい気持ちを強く感じました」と関東大会出場が決定した時について語る。

勝つという気持ちを大切に

また、関東大会に出場した時の気持ちについて「自分の中でやり切ったという気持ちはありますが、結果が思うようにいかなかったので悔しい気持ちもあります」と振り返った。出場した団体形の中では、みんなで動きをそろえることが大事だが、その中で力強さを出すためにみんなで声を掛け合いながら練習を行ったそうだ。

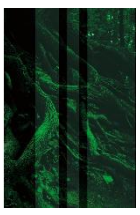
最後に徳光さんは「関東大会の時に勝ちたいという気持ちが弱いと指摘されたので、勝つという気持ちを強く持ってこれからも来年の関東大会に向けて、頑張ってください」と後輩に向けてのメッセージを語ってくれた。

探究を通して新たな視点を

１年探究

１年生の探究担当の石井智先生によると、１年生の探究の授業は「授業を通して自身の振り返りを習慣化し、世の中に視野を広げること」が目的だという。

現在行っている探究活動では『今予想されている未来で戦う力』を身につけるための教材である「エナジード」を活用して、身近なことの中にある違和感に目を向ける練習をしている。



ENAGEED CORE vol.1 次の時代に求められる、人の力

タブレット端末で
教材を操作する

石井先生は、エナジードで学んだことは今後自分が興味のあるものを探す際や、自分自身を深く知るために役立ち、日常の中の新たな気付きや発案の基礎的なスキルを身につけることにつながると話した。

２年探究

２年生は『日常生活において様々な疑問を持ち、その疑問を解消するための手立てを考えて、それを実践してみること』をもとに探究学習を行っている。今年は各々が持つ疑問から考えた解決策の実践・発表を班ごとに行っていく。現在は、自分が興味をもっている分野について調べるための準備をしている。

２学年探究活動担当の西塚友紀子先生は「社会に興味をもつ、視野を広める、想像力を豊かにすることを目標に楽しんでください」と２年生に呼び掛けた。

３年探究

３年生の探究は「進路探究」を行っている。今は志望理由書を作成し、夏休みに行われる三者面談で保護者と担任の前で発表するプレゼンの準備に取り組んでいる。そのため、３学年の探究活動は夏には終わるそうだ。

３学年探究活動担当の松橋遼先生は今後の活動を通して今のうちに自分の目標をはっきり言語化させることで、夏休みに勉強により集中することができると語る。「目標をしっかり立てることで、大学に進んだときの後悔をできるだけ減らしてほしいです」と話した。

（布・月・紫）

ポロシャツ販売！着心地はいかに

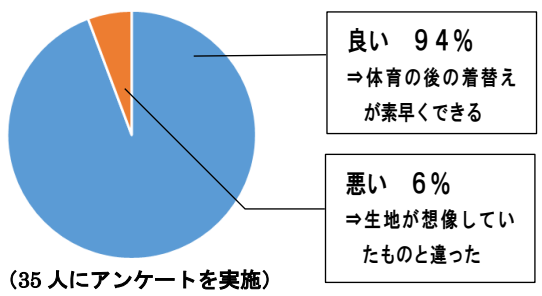
６月19日から21日にかけて遂にポロシャツの販売が開始された。ポロシャツを受け取った翌日から、多くの生徒がポロシャツを着用している様子が見られている。

実際にポロシャツを購入した小尾瑞希さん（１D）は「シャツとネクタイを着用している時よりも着心地が良いです。最近暑い日が増えていますが過ごしやすいと感じています」と語る。またデザインについて「想像していたよりも可愛いデザインで、着やすいと思いました。ポロシャツはとても気に入っているので今後も着ていきたいです」と話してくれた。

ポロシャツは６月28日（水）から購買にて追加購入が可能であり、西武学生服売り場では６月30日（金）から販売が開始される予定だ。

（鋼）

ポロシャツの着心地はどうですか？



（35人にアンケートを実施）

最後に響く最高の音色

室内楽部

６月17日（土）に室内楽部の定期演奏会が、ルネこだいらの中ホールで開催された。

エドヴァルド・グリーグが作曲した「ホルベルク」、芥川也寸志が作曲した「トリプティーク」などのクラシックな曲から、official髭男dismの「115万キロのフィルム」やRADWIMPSの「正解」などのJ-popの曲まで全12曲が演奏された。

美しい音色を奏でる

会場を最も沸かせたのは葉加瀬太郎の演奏で有名な「情熱大陸」と久石壌の「summer」。「情熱大陸」はヴァイオリンのソロパートから勢いよく始まった。サビの部分はとても迫力があり、力強く息の合った演奏が観客を圧倒する。また「summer」は、曲の中にピッチカートと呼ばれる弦を爪ではじく演奏方法を行うことでよりゆったりとした曲調で夏を連想させ、この曲の切ない雰囲気が観客の感動をさそった。

２時間30分に及ぶ定期演奏会を終えた部長の山畑未来さん（３G）は「１年生の指導に加え、少ない練習時間で曲の完成度を高めてくれた２、３年生の部員には感謝の気持ちでいっぱいです。部員全員で行う最後の演奏で悲しかったのですが、みんなで一致団結して楽しく悔いを残さずに定期演奏会を終えることが出来てよかったです」と笑顔で語ってくれた。

吹奏楽部

６月18日（日）にルネこだいら大ホールにて、吹奏楽部の第48回定期演奏会が行われた。

始まりはクラシックステージ。まず演奏されたのは「レトロ」「With heart and voice」という曲では、作者であるD.ギリングハムが校長を務めていた学校の校歌であった讃美歌が曲中に使用されていることから、讃美歌を合唱してから演奏された。

麦わら帽子で
「ウィーアー」を指揮する

ドリルステージは米津玄師の「ピースサイン」から始まった。「プリキュア5GO!GO!」の演奏中の約15kgあるスーザフォンを回す場面では会場からは驚きの声があがった。途中には吹奏楽部１年生とゲストによる漫才が行われた。

最後はポップスステージ。１、２年生によるEXILEの「道」の演奏中に３年生の点呼が行われ、最後は３年生のみで演奏された。そして最後に「スーパーマリオブラザーズ」を演奏し、指揮者がマリオのコスプレをしたり、観客と一緒に手拍子を行ったりするなど、会場全体が盛り上がりを見せた。

吹奏楽部部長の丸山彩萌さん（３F）は「無事に定期演奏会が終わって安心しました。また、帰っていくお客さんが『楽しかったよ』と言ってくれてうれしかったです」と定期演奏会の感想を語ってくれた。最後に後輩に向けて「３年生になると勉強も忙しくなり、特に定期演奏会の前は大変で辛いと感じることがあるかもしれないけれど、頑張ってほしいです」とメッセージを送った。

（布・紫）

むらさき草

６月16日に「ロシアのプーチン大統領が隣国のベラルーシに戦術核の第一弾を搬入した」というニュースが流れてきた。ロシアとウクライナの戦争は今も世界中に大きな被害と脅威を与えている▼数年前、広島県の原爆資料館を訪れたことがある。資料館の展示物は被爆者の遺物、写真など戦争や核兵器の恐ろしさと被害の実態を伝えるものだった。中でも被爆者の証言は心から離れない。原子爆弾で彼らの幸せな日常や町や命が一瞬にして奪われてしまった▼私の曾祖母も戦争の体験をよく話してくれた。親戚が戦死した話、毎日のようにB29が空を飛んでいた話など、現代の日本では考えられない話をしてくれた。彼女は「今になっても戦争で亡くなった親戚のことを思い出すと心が痛い。あなたたちにはこんな経験はしてほしくない」と涙を流していた。どんなに時がたっても戦争が残した傷は消えない▼近年の世界の状況に対して、私たち高校生にはなにができるのか。それは、これらへの理解を深め、知ることである。日ごろからニュースや新聞を読んで核兵器について私たちなりに考えることが必要だ。そして、日本から世界へ向けて核兵器廃絶の声を発信していくべきだ▼世界では未だに核兵器の脅威が常に存在している。そしてこの問題について他人事だと考えず、自分たちにもかかわる問題だと考えるべきである。これからの未来を担うのは私たちだ。核兵器廃絶の声を、唯一の被爆国である日本から全世界に広げていくべきだろう▼被爆者で、平和運動家の山口仙二さんはこう残した。「まだ核兵器が世界中にあることが　いちばん悲しい　自分の体が続く限り　原爆反対　を言い続けたい」。２０２３年６月現在、世界に存在する核弾頭の数は推定１２５２０発。「核兵器の終わりか、私たちの終わりか」、私たちの行動にかかっていると考える。

（蛋）

充実した学校づくりへ挑む

生徒会の任期半分終了を受け、生徒と生徒会役員に意見や感想を聞いた

前号の裏面で掲載した「任期の半分を終えた生徒会役員が思う公約達成度」に加えて、公約認知度と生徒が思う公約達成度を調査した。この結果を分析し、結果を見ての生徒会役員の反応と、生徒の意見を掲載する。

（編集部共同取材）

6月17日～22日に各学年1クラスにアンケートを行った。（1年生32人、2年生37人、3年生31人、計100人）

公約内容	役員が思う達成度（前号より）	生徒の認知度(%)				生徒が思う達成度(%)		
		全学年	一年	二年	三年	すごく	あまり	まったく
・中央委員会の内部改革	55%	12	0	35	0	0	80	19
・自習室開放時間の延長	65%	36	0	37	74	0	26	74
・ローファーの自由化	70%	29	0	56	30	0	16	84
・カイロのリサイクル実施	90%	75	28	100	100	51	47	2
・紙ごみの分類通知	無回答	4	5	8	0	13	42	45
・靴下の自由化	40%	70	35	84	90	2	56	42
・代議改革	約60%	10	0	23	23	4	48	48
・部活動の任意の休止期間設置(テスト期間前)	50%	64	30	73	87	10	35	56

生徒会役員座談会で前期を振り返る

生徒の公約認知度は

6月17日(土)から6月22日(木)にかけて各学年一クラスにアンケートを行った。図中に載せている数字はすべて%表記となっている。

左に掲載されているアンケートの結果から1年生は2年生、3年生と比較して、今期生徒会が掲げている公約を知らない生徒が多いことが分かる。この理由として、2年生、3年生は昨年度の生徒会選挙で役員それぞれの公約を聞く機会があったが、今年度に入って1年生に対する生徒会活動の詳しい説明がされていないことが挙げられる。

また、公約ごとに認知度の差があり、生徒会内の改革は知らなくても、カイロリサイクルや靴下の自由化などの生徒会が直接生徒に公約へ協力を呼び掛けたり、アンケートを実施したりしているものは多くの生徒がその公約の存在を認知していた。

しかし、カイロ回収後からの状況が説明されていないこと、靴下に関するアンケートが未だにクラスの代議委員によって行われていることが公約達成に近づいていないと感じている生徒が多い理由であると考えられる。

生徒へ生徒会活動を伝えるため、不定期で生徒会報が配布されているが、生徒会報を読む生徒が少ないことも生徒会活動の認知度が低い理由のひとつではないか。

新入生への公約紹介

全学年を対象に行った生徒会が掲げる公約の認知度や達成度についてのアンケートの結果を踏まえ、生徒会長の高梨恭一さん(3D)と生徒副会長の山田拓仁さん(2K)、監査委員長の加園羚也さん(3K)、監査副委員長の浦山一花さん(2E)の四人に座談会を開いてもらい、取材した。

四人が結果を見て一番初めに話題としたのは一年生の公約の認知が非常に低い状態になってしまっているということだ。浦山さんは認知が不十分な理由について一年生が入学してからそれぞれが生徒会選挙時に掲げていた公約を紹介する機会を設けていなかったことを挙げる。それに対して高梨さんをはじめとする4人は新入生に生徒会報などを通じて役員の名前と公約を伝える機会をつくることは必要だと話した。

結果を受け生徒会は

全学年共通で認知度と生徒が思う進捗度が低かった公約については「生徒に対してまだ活動の成果を出せていない公約や、内部改革など生徒に直接的な関わりがない公約の結果の低さを問題視や悲観する必要はない」という意見で一致した。加園さんは「さぼっていて進んでいないのと話を進めている途中とでは生徒が進捗状況を知らないという状態は同じでもその内実は違うと思います。代議改革などは代議中心で進めている時間がかかることなので、実行されるタイミングや生徒へアンケートをするタイミングで内容と進捗状況が正しく周知されていたら十分だと思います」と話す。

加園さん以外の3人もこの意見には賛成のようで、この結果は想定内だという。高梨さんは形が出来てからでないと報告できないという面もあることを踏まえて「仕事が出来ていないと思われてもしかたがないとは思います。僕たちが進めていることの中で、生徒の皆さんが知る必要のあることや知らせることが出来るものは生徒会報や代議委員会、Google classroom で報告しています」と生徒会が情報伝達ツールとして使用しているものを挙げた。

しかし同時に生徒会役員の間ではGoogle classroomでのアンケートの回答率の低さや、生徒会報に目を通す生徒の人数などから、伝える必要のある情報の周知がどれだけできているか、という不安はあるようだ。

・・・・・・

生徒が主体となって構成されている生徒会。その生徒が活動の実情を知らないということは生徒が活動の応援をしにくい環境ができてしまう可能性がある。

また、たとえ生徒の目に触れないような公約だったとしても、こまめに生徒に報告する必要はあるのではないかという声もある。

これからも錦城高校新聞は生徒会の活動の実情とそれに対する生徒の意見に注目し、紙面を通じて錦城生へ伝え続けていく。（白・紫）

生徒の意見はいかに

生徒会の公約認知度アンケートの結果を受けての感想を小池優貴さん(2I)に感想を聞いた。小池さんは生徒会がとても精力的に活動していると思ったそうだ。しかし、アンケートの結果を見て、生徒会の活動の認知度は低く特に1年生の認知度が低いと感じたという。小池さんは「生徒会選挙の時しか、公約を知る機会がないので、知る機会がもう少し増えたらいいのではないかと思います」と語る。

また「自分からそのような情報を得ようとする人は少ないので、日々の生活の中で自然に耳に入ってくるような環境になったらよいと思います」と話した。

また、山本葵さん(2I)はカイロリサイクルや靴下の自由化など、生徒に対してアンケートなどが行われた公約は知っているが、その他の公約は知らないそうで、生徒会が精力的に活動しているかは疑問に思っていたそうだ。

その上でアンケートの結果を見て「私だけでなく多くの人が知らない公約が多いと感じてるのだと思いました」と語る。「生徒会である以上、生徒からの認知がないのは問題だと思います」といい「もっと公約や生徒会の活動などの情報が私たちに届くようにしてほしいです」と話した。（紫）

活発に意見が飛び交う

文化部めぐり

今号から始まる隔週連載企画「文化部めぐり」。このコーナーでは普段活動をみられることが少ない文化部の活動内容を紹介していく。紹介してほしい部活動があれば、7階生徒会室まで。

珍しい生き物と触れ合う

生物部の主な活動は生き物の世話で、飼育している生物を繁殖させることを目的に日々世話をしている。

生物部は爬虫類班、哺乳類班、魚類班、昆虫班、植物班の計5つの班に分かれており、爬虫類班ではイグアナ、ヘビ、ヤモリ、哺乳類はチンチラ、モルモット、ハムスター、魚類班はトラウツボ、メダカ、グッピー、昆虫類班はゴキブリ、サソリ、クワガタ、カマキリ、植物班は畑で小松菜、ニンジン、枝豆などを育てているという。その他にも学校の花壇の管理なども行っている。

飼育されているクレステッドゲッコー

生物部の部長の吉田凛音(2J)さんは「生物部は月、火、水、木、土曜日の活動日にバスケットコート奥の倉庫でいつでも活動しているので生き物を見たい人はぜひ気軽に見学しにきてください」と語った。（布）

脚本～編集まで自力で行う

映画研究部は1年生8人、2年生7人、3年生13人の計28人で活動している。活動日は決まっておらず、年に2回行われる大会に向けて、日々ドラマやドキュメントの制作を行っている。

撮影にも熱が入る

ドラマは校内で撮影を行い、部員が演者を務めたり、編集を行ったりしている。ドキュメントはテーマに基づいて取材を行い、その取材では外部に行くこともあるそうだ。

映画研究部の魅力を部長の今泉理奈さん(2K)は「自分が作りたいものを作れることが魅力だと思います。また、演者や脚本、編集などたくさんの役割があるので、自分が好きなことをできるのもよいところだと思います」と語る。そして錦城生に向けて「部員はまだ募集中なので気軽に見学に来てください」と話す。

また「ドラマのエキストラも募集しているので、ぜひ参加してください」と錦城生へ呼びかけた。（紫）

教育実習のながれ

～教育実習を終えて～

前号で掲載した「教育実習のながれ」では実習に来る前の準備について詳しく取り上げた。今号では教育実習生の実習中の一日の流れについて、社会科の松本直子先生と体育科の丸山智大先生に取材した。先生の一日のスケジュール表が左側に掲載されているので科目による差などもぜひ参考にしながらこの記事を読んでみてほしい。

体育科の丸山先生は朝6時40分には錦城に到着していたという。なぜこんなに早いのか聞くと、体育の授業で使うグラウンドや体育館、柔道場の準備をし、授業時の生徒の怪我を防ぐためだと答えてくれた。

授業時間になってからは自分が担当している授業を行うのはもちろん、体育では自分の授業の前後の授業の片づけや準備を手伝っていたそうだ。放課後はその日の授業の振り返りをしたり、使った道具の数の確認や実技を教えられるように習って練習していたそうだ。

松本先生も朝のHRまでは授業準備をしていたそう。授業時間中に自分の授業がないときは授業の準備をしたりほかの先生方の授業を見学しに行っていたという。授業の見学に行っていた理由について「50分の授業を充実させる技術を見ながら学ばせてもらい、参考にして自分の授業をより良くしようと積極的に行っていました」と話してくれた。放課後は授業の反省をし、次の日以降改善したいことを考えていたという。

3週間に渡った教育実習を振り返っての反省点について、松本先生と丸山先生は「授業で精いっぱいで部活動や委員会活動を見ることが出来なかったので、生徒たちの勉強面以外も見られるように計画的に準備しておくべきでした」と話してくれた。

教育実習の先生方はこれから授業でした失敗を振り返って改善するために科目そのものの知識量を増やしたり生徒との関わり方を学んだりしていく予定だそう。（白）

社会科　松本直子先生	
7:30	学校到着
	授業準備
	出欠の確認
8:25	HR
授業時間	担当の授業をする
	先生方の授業を見る
	空き時間は授業準備
放課後	授業の反省
	翌日以降の授業の準備
体育科　丸山智大先生	
6:40	学校到着
	授業場所準備
	出欠の確認
8:25	HR
授業時間	担当授業の一コマ前には
	授業場所に行き、手伝う
	空き時間は授業準備
放課後	授業の反省
	実技の練習

大会報告

体操部
▽5月7日
東京都高等学校体操競技3年生大会(男子)
団体総合3位入賞
個人板橋博大(3E)ゆか3位
杉山徹大(3M)鉄棒3位
跳馬3位

空手道部
▽6月9・10・11日
関東高等学校空手道大会
女子団体形第1ラウンド敗退

陸上競技部
▽6月3・4日
5・6支部学年別大会
2年男子100メートル
須加湧大2位
3年男子400メートル
班目心3位・広瀬優7位
男子4×100メートル
佐藤・須加・梅澤・大原4位
男子4×400メートル
班目・大原・梅澤・須加
2年女子800メートル
太田結菜5位・安藤こころ7位・清水莉音8位
3年女子400メートル
土屋陽香6位・村野一花7位
3年女子800メートル
吉川佳凛2位
共通女子3000メートル
早川愛花3位
共通女子400メートルハードル
小田桐歩花2位
女子4×400メートルリレー
村野・田村・山並・土屋6位
共通女子走り高跳
田村沙代子3位・芝本璃音6位
▽6月16日
高校総体関東大会女子5000メートル競歩
早川愛花3位・池田美和7位
男子バレーボール部
▽6月18日
インターハイ東京都予選会
東京都ベスト16
映画研究部・放送部
▽6月18日
NHK杯全国高等学校放送コンテスト東京大会決勝
映画研究部
創作テレビ部門・テレビドキュメント部門　優勝
放送部
ラジオドキュメント部門　準優勝